



編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
業務管理グループ
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

平成23年度（第15回）定期総会を開催

5月8日（日）午後1時から、千葉市の「きぼーる」において横山清美氏の司会で、主催者として桑波田和子代表の挨拶に次いで、来賓として千葉県環境生活部環境政策課温暖化対策推進室 渋谷博之氏、(財)千葉県環境財団環境管理グループ 山口幸一氏から挨拶をいただき、会員18名の出席を得て開催されました。なお、当会の現在の会員数は、個人会員86名と団体会員29団体です。

第一部 総会

議長に荒井進、書記に吉田陸の両氏を選出し、担当者から平成22年度事業報告、会計報告、会計監査報告が行われ承認されました。次いで平成23年度事業計画、予算、役員改選、等の順に審議され、すべて承認されました。

各項目の要点は以下のとおりです。

事業報告：前年度の事業の骨子を踏襲し、情報活動、主体的活動、ネットワーク活動等の各分野で、質量ともに前年度並みの成果を上げることができました。

会計報告：収入は、会費や千葉市エコ体験スクールやLOVE OUR BAY募金等です。支出は、会報や事業等の経費です。会費未納者の対応に課題が残りました。

会計監査の大西優子さんから22年度会計監査報告がありました。

事業計画：当会を維持発展させてゆくためには、時代とともに変わる会員のニーズに合わせた活動を展開することが肝要ですが、今年度は社会の情報化の進展と会員間の密な交流の必要性を踏まえて、会員間の情報交流のみならず顔の見える交流も促進するためのツールとして「環境広場ちば」（仮称）という情報プラットフォームを立ち上げる計画を提案し、今後実施へ向けて始動します。

また、エコサロンの充実、アース・ダイアログの開催や、当会のリーフレット作成等提案しました。

予算：主に会費とLOVE OUR BAY募金等の助成金が収入となり、23年度の事業費が支出されます。会費納入にも検討します。

役員改正：桑波田和子新代表から新役員の紹介が行われ総会を閉じました。

第二部 交流会

総会后、出席者の大半が残り、荒井氏(循環型地球環境保全機構)、山部氏(NPO法人せっけんの街)、佐藤ミヤ子氏、成瀬氏(エコキーパー協会)による団体の活動紹介が行われ、その後、出席者による意見交換が行われました。

※総会で承認された22年度収支決算書、事業報告、23年度予算及び事業、新運営委員等の資料を「だより79号」に同封してありますので、ご確認ください。(文責 牧内)

ひろがれ つながれ 緩やかなネットワークを！

—平成23年度もどうぞよろしくお願いたします—

代表 桑波田 和子

本日はご多忙の中、23年総会にご出席いただきました皆さま、また、千葉県環境政策課温暖化対策推進室渋谷 博之様、千葉県環境財団の山口幸一様にはご臨席いただき、ありがとうございます。

22年度は、当会の4代目の代表として初めて活動させていただきました。会員の皆様、運営委員、他団体、企業、行政の方のご協力をいただき、

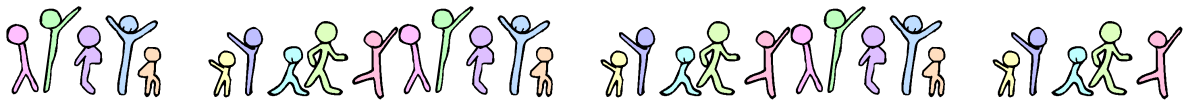
収穫の多い事業を展開できましたことを感謝しています。事業としては、暑い夏休みに開催した「千葉市エコ体験スクール(花見川区)」や東京湾から印旛沼までの「私のエコウォーキングマップ」の改訂版作成、22年度千葉県環境生活部県民活動・文化課が呼びかけた「企業とNPOによるパートナーシップ事業」に応募し、(株)東京ガス千葉支店様と「温暖化防止に向けたエネルギー

ーに関するまなび会」を開催しました。さらに、環境学習コーディネーター（ELCoの会）、エコメッセ2010inちば、環境シンポジウム千葉会議、里山シンポジウムなどの開催にも、当会として関わらせていただきました。

しかし、年度末の3月11日の東日本大震災では、未曾有といわれる大きな試練にぶつかりました。自然の脅威と進化し続ける文明（文化）とは？私たちが求めてきたものとは？等、多くの課題を突き付けられました。一日も早い震災の復興を願います。また、今こそ、私たちのライフサイクル等を本気で見直す時だと思えます。当会のリ

ーフレットの表紙に掲載している「健康で、心豊かに暮らせる持続可能な社会の実現に向けて！」を再確認しています。

市民・企業・行政とのパートナーシップで環境活動の推進と充実を目指す当会の役割は、今後ますます必要であると思えます。各主体を尊重し緩やかな連携でつながり、目標に向けて達成するため着実に23年度も活動していきますので皆さまのご協力、アドバイス等よろしくおねがいします。



環境パートナーシップちば総会挨拶

千葉県環境生活部環境政策課温暖化対策推進室
室長 渋谷 博之 氏



千葉県環境政策課 渋谷と申します。「環境パートナーシップちば」の総会にお招きいただき、ありがとうございます。

本来であれば、当課 土屋課長が出席すべきところですが、本日は、代理として私からごあいさつ申し上げます。

環境パートナーシップちばの会員の皆様には、日頃から環境学習や地球温暖化の防止、資源循環型社会づくりをはじめ、里山の保全や印旛沼の水質浄化など地域からの環境保全活動の推進に、御尽力いただき心から感謝申し上げます。

さて、東日本大震災からまもなく2か月が経過しますが、原子力発電所の被災により、今夏の電力不足が心配されているところです。

県では、4月20日、知事を本部長とする「千葉県省エネルギー等対策推進本部」を設置し、電力不足への対応や省エネルギー・新エネルギーの推進を図るべく、事業所としての県自らの取組み、事業者に要請したい取組み、県民に協力いただきたい取組みやこれらの推進方策を取りまとめているところです。

震災からの復興を目指す中で、我が国が真に持続可能な社会を構築できるのか、国際社会からも注目されています。

そのような中で、地域にあって、様々な主体との緩やかな連帯による活動を基本理念とする「環境パートナーシップちば」の存在意義がますます重要となっていくものと考えています。

県としても、持続可能な社会の構築に向け、皆様をはじめ、環境保全に関わる様々な主体との連携や協働を深めてまいりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

終わりに、「環境パートナーシップちば」のますますの発展と、御参加の皆様の御健勝を祈念して、あいさつといたします。

(財)千葉県環境財団業務管理グループ 山口 幸一氏

本日は、環境パートナーシップちば定期総会にお招きいただきありがとうございます。

環境パートナーシップちば様は、平成9年6月に県内で初めて環境グループのネットワークとして誕生しました。発足当初から事務局を当財団の環境学習推進室に置き、財団とは二人三脚のような関係でございます。環境パートナーシップちば様が発足したときの「環境パートナーシップちば」だより創刊号で、当時の千葉県環境財団理事長の松鶴 靖が『〔ボランティアする人この指とまれ〕の発想が実を結び、多くの方がこの指に止まってくださることを念願することです。』と寄稿してから、14年となりました。この言葉どおり皆さまの活動は見事に開花し、今まさに実を結んでおります。また、「ストップ温暖化千葉推進会議」様や「ごみゼロネットちば21」様が誕生した平成13年頃から「環境市民のゆるやかな連携のもとに」をキーワードに会の活動を行っている聞いております。さらに、現在、環境パートナーシップちばのメイン行事の一つである「エコサロン」の開催もこの頃かと思えます。

さて、環境パートナーシップちば様のキーワードである「緩やかな連携」と聞くと、なかよレグループのようなイメージに思えますが、緩やかな連携を保つためには、お互いを認め合い対等な立場でなければ成り立たないと考えます。一見、強いリーダーシップのもとに会を運営していくことが良いように思えますが、現代社会の多種多様な環境問題に対応するためには、柔軟でしなやかな活動が必要ではないかと思えます。「緩やかな連携」による運営には、まさに理にかなった運営で



はないでしょうか。このような運営を行って行けることは、桑波田代表はじめ役員、会員のご協力の賜物ではないかと思えます。

昨年、環境省から「平成21年度公共用水域水質測定結果」が発表され、残念ながら印旛沼・手賀沼が湖沼ワースト5に返り咲いてしまいました。環境パートナーシップちば様におかれましては「印旛沼をきれいにする活動」など、印旛沼浄化のためにご活躍されており、今後益々、環境パートナーシップちば様や会員の皆さま方の活動が重要となってきていると思えます。

千葉県環境財団といたしましても、皆さま方とともに様々な環境問題に取り組んでいきますので、なお一層のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。最後に、環境パートナーシップちば様のご活躍がますます発展されますことを祈念いたしまして、簡単ですが挨拶とさせていただきます。

交流会から



千葉県内での「ケナフ」の取り組み

NPO 法人循環型地球環境保全機構
理事長 荒井 進氏

当機構は、木材資源伐採を少しでも減らそうと約20年前に設立されました。ケナフの歴史は古くアフリカ原産と言われ1930年頃中国東北部(旧満州)で日本人が当時国策として2万ヘクタール栽培し、ケナフの外側の靱皮繊維を利用した経過があります。1990年5月参議院環境委員会で「森林保全に有効な植物」との発言があり「環境保全に役立つ紙資源ケナフ」の書籍を発行しケナフブームの基礎が作られました。

千葉県では、1997年エコマインド養成講座

を受講した有志による[エコフレンド]を設立し、印西市の畑でケナフ栽培が始まりました。翌年には御宿の「かもめ」のケナフ栽培から紙すきの指導を行い、同年千葉市緑区の農家から3反歩の畑の無償提供を受けてケナフ栽培を大々的に始めた参加者はボランティア・ガールスカウト・協力企業の社員等で、種まきの様子が各マスコミの取材を受け、一部環境教育用のビデオ会社が収録し発売されました。

これが機会で[千葉ケナフの会]の設立総会が船橋の公民館で開催され初代会長に平野和子(国際ソロプチミスト千葉)が選出され、9月には「土気ケナフ祭り」が畑で、講演会・紙すき大会は、あすみが丘プラザで実施されました。翌99年船

橋農業センター(川井洋基所長・現船橋市議会議員)で環境学習に「ケナフ紙すき」。同年8月県内9団体が参加して(千葉・船橋・佐倉・野田。関宿・八千代・白井遊楽ホーム・グリーンロード)によって千葉ケナフ普及連絡協議会が設立されました。翌2000年東京都環境局主催の「地球の未来を考える環境サミット」に千葉県から船橋高根小学校・佐倉の障害者施設利ホープのケナフ発表がされました。

現在は船橋市高根町の300坪栽培を続けています。東日本大震災の気仙沼高校とケナフによる塩害改善試験を実施しています、今年8月下旬頃視察ツアーを実施しますので、一度参加してケナフを再認識してみたいはいかがですか？

NPO エコキーパー協会の活動概要

特定非営利活動法人 エコキーパー協会

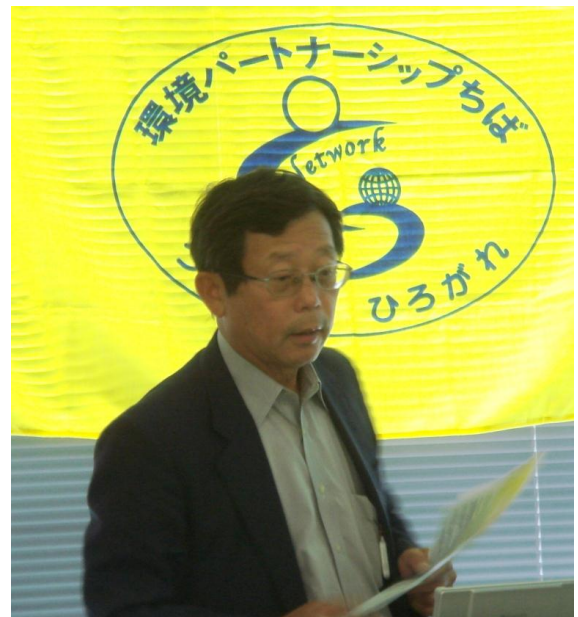
成瀬 義弘氏

私どもは特定非営利活動法人 エコキーパー協会と申します。平成20年6月10日に内閣府からNPO法人の認証を受け、6月16日に設立いたしました。これまで約3年間活動を続けてまいりました。

地球温暖化防止に向けて京都議定書が発行されましたが、業務部門(オフィスビルなど)や家庭部門ではその達成が極めて困難な状況であります。また、中小企業における省エネ活動も十分とはいえません。このような中小事業者やオフィス、家庭における省エネ活動は機械や設備に頼るだけでなく、省エネ意識の習慣化による草の根的省エネ活動が重要であると私どもNPO エコキーパー協会は考えています。

NPOエコキーパー協会は「I am Eco Keeper」を合言葉に地球温暖化防止活動の重要性を学習するとともに、日常の経済活動、生活の中で省エネを実践する人(エコキーパーやエコトレーナー)の育成が急務と考えています。そのため、事業の中核としてエコキーパー研修等の研修・検定事業を行ってきました。職場や家庭で実践的省エネ活動を推進する人材を供給したいと考えています。

既に、全国で120人以上のエコキーパーが誕生しています。また、企業の社員教育や学生向けのエコに関する研修パッケージもご用意してい



ます。先の東日本大震災の影響もあり、今後、ますます節電が要請されています。

当協会においても3月18日にホームページに(<http://www.ecokeeper.org>)緊急提案を行って、家庭における節電のノウハウを公開しています。また、今後、設立3周年記念事業の一環として節電対策セミナーを実施することになっています。(詳細はホームページ参照下さい)

第8回 里山シンポジウム 全体会開催 テーマ 「里山 里海 と 食」 ～夷隅の根っこから元気に～

日時：5月22日（日）10時～16時
会場：いすみ市夷隅文化会館
主催：里山シンポジウム実行委員会
千葉県・NPO 法人ちば里山センター
共催：いすみ市
後援：御宿町・NPO 法人千葉自然学校



4コースが集まる振り返りでは、各コースの魅力と地域を知り多くの発見の報告がありました。

22日の全体会では、東日本大震災で亡くなられた方への黙祷をささげ、会が始まりました。

新緑が美しいこの時期、恒例の里山シンポジウムが、いすみ市で開催されました。会場の提供などいすみ市には大変ご協力をいただきました。参加者は、174名で、地元の方はじめ県内・県外からの参加もありました。いすみ市には、里海、里山があり山の恵、里の恵、海の恵ととても豊かな街です。

このような地域を知っていただきたいと、21日(土)は、夷隅の楽しい場所めぐり(エクスカーション)が開催され、約70名の参加者がありました。コースは、①再生した谷津とオーガニックマーケット牛舎8号 ②太東崎灯台と河口干潟コース ③行元寺と森と谷津田コース ④沿岸クルーズと砂浜散策コースの4コースでした。

①コースでは、谷津田の再生活動とジャージー牛を飼育している里山の見学と、牛舎を活用した、御宿フロンティアマーケット牛舎8号を見学しました。特産の伊勢海老を使った「食べるラー油」新鮮な野菜などが販売されていました。昼食の後には、手塚さん方が COP10 で披露した「谷津田再生病院」の紙芝居を見せていただきました。谷津田をみんなで再生する活動を通して、子どもはもちろん親の笑顔が多くなり元気になるという不思議な力があるそうです。



金親実行委員長の挨拶に「里山・里海を保全、再生するには、そこにすむ人々が、まずは地域の素晴らしい資源を認識し次にこれをいかに持続的に活用して「なりわいに」結び付けていくことが問題解決の一つのポイントです」とあり共感するところです。続いていすみ市副市長、千葉県森林課課長から来賓のご挨拶をいただきました。

基調講演は、一次産業復興のために活躍中の仲野隆三氏(富里農業協同組合常務理事)による「地域活性化 やればできる 2億から75億への成長の軌跡」についてでした。仲野氏の具体的な講演内容は、農業を元気にして、ひいては里山も保全されていくヒントがありました。仲野氏のようなJA職員が日本中にたくさんいて欲しいものです。

基調講演終了後は、会場の駐車場に「野外テント村」がオープンし、「夷隅のうまいもの食っちゃおう」として、夷隅地域の里山里海で生産される農林水産物や、お弁当等の展示・販売があり、夷隅の食を堪能し心豊かな気分となりました。



会場内には、市民団体、大学や行政等のパネル展示があり、午後の分科会開始までゆっくりと対話しながらの場となりました。

午後は以下の5つの分科会が開かれました。

- ① 農林水産業の6次産業化をどう具体化するか
- ② いすみの食材があふれる食卓
- ③ 里山景観と森と海のグリーンツーリズムに必要なこと
- ④ 耕作放棄地と有休農地の再生と活用

- ⑤ 新しい里山の価値の創生（オーガニック、ウーファー、サーファアー）

分科会終了後は総合討論が行われ、分科会の報告者からは、いすみ市の里山・里海の良さなどが多くありました。今後これらをどのように生かしていくことに向けて検討・実行していきたいものです。

（文責 桑波田）

印旛沼里山ウォーキングマップ Ver.2について

千葉県柏土木事務所（前成田土木事務所） 林 薫 氏

「印旛沼里山ウォーキングマップ Ver.2」ができあがりました。おかげさまで、昨年発行の初版（本誌72号で紹介）はなかなか好評で、品切れになっていましたので、この1年間にいろいろな方々から寄せられた意見や情報をもとに、このたび増刷を兼ねて大幅にバージョンアップをいたしました。

今回 Ver.2 の基本趣旨は初版と同じですが、主な改良点は以下のとおりです。

- ① 印旛沼のほぼ全流域をバランスよくカバーする17のモデルルートを新たに設定したこと
- ② 印旛沼はもとより、手賀沼、都川、根木名川、作田川など周辺の河川流域のルートも大幅に追加設定したうえ、印旛沼流域とのネットワークを強化したこと（ルートのトータル距離は約1000km→1500kmに）

そのほか掲載情報も質・量ともに大幅にアップし、初版に比べ格段に充実した内容となっております。

これらの改訂によって、余り土地勘のない方でも、より手軽にそして確実に、印旛沼周辺の里山の多彩な魅力にふれることができるようになりました。

このマップの楽しみ方ですが、まずは記載されたウォーキングルート、特に今回設定した17のモデルルートに沿って歩いてみることをお勧めします。それだけでも印旛沼流域の里山のすばらしさを満喫できることでしょう。

ここで、さらに進んだ楽しみ方を3つほど提案

いたします。まずは、身近なルートをぜひさまざまな角度から味わってみてください。例えば、同じ場所でも四季折々に雰囲気は大きく異なりまし、逆方向に歩いてみるだけでも、ずいぶん違った景観を発見できることと思います。

次に、パズルのようにいくつかのルートを組み合わせたり、あるいは、全く新しい秘密のルートやスポットを開拓したりしながら、自分だけのお気に入りコースをみつけるのもとっても楽しいですよ。

さらに、特定のテーマをクローズアップしてみるのはいかがでしょうか。例えば野鳥、木々（写真1）、水草、谷津田の風景、お寺や神社を始め、里山の営みを数百年にわたり静かに見守ってきた路ばたのお地藏さま（写真2）なども心洗われまし、昭和の雰囲気や地元常連客と店員さんのおしゃべりがどこか懐かしい昔ながらの飲食店（写真3）を探しながら歩くのもワクワクさせんか。

いずれにしろ、皆さんにとって生涯の友となるであろう多彩で馥郁たる世界が、この小さな1枚を入口としてその先に広がっていることをお約束いたします。五感と心を全開にして歩いてみてください。

田植えも終わり、緑が深まってきましたね。さらに使いやすく成長したこのマップを片手に、「日本の宝」として世界に誇るべき北総の里山を存分に味わっていただければ幸いです。それではお気をつけて！

ご案内

6月の環境パートナーシップエコサロン

テーマ：放射能について考えましょう

日時：6月17日(金) 13:00~15:00

会場：千葉市民活動センター 大会議室

話題提供者：高梨秀一氏(元千葉県職員)

主催：環境パートナーシップちば

定員：先着30名

参加費：500円（資料代）

申し込み：kuwahatak@hotmail.com

ーちばの里山里海サブグローバル評価 最終報告書刊行されるー

里山里海SGAプロジェクトメンバー小倉 久子氏

千葉県生物多様性センターでは、2008年から県庁内でプロジェクトチームを作って、千葉県の里山・里海・里沼（地域＝サブグローバル）の評価を行ってきました。すなわち、千葉県の環境が昔からどのように変化してきたのか、それはよい方向に進んでいるのか、このままの環境の使い方でよいのだろうか、ということをしてできるだけデータに基づいた科学的な方法で調べてきたのです。国連大学高等研究所が全国の研究者の音頭取りになって、2010年10月に名古屋市で開催された

第10回生物多様性条約締約国会議（BD COP10）に合わせて日本全体の生態系について評価を行ったのですが、その材料として地域（サイト：千葉県など）ごとの評価を行ったので、それをまとめて「ちばの里山里海サブグローバル評価報告書」としたわけです。

テーマは、首都圏に位置するという千葉県の特性から、都市化、開発、過疎、というキーワードから考えました。

里海の埋め立てや里山の切り崩しによって、都市はどんどん膨張し、その裏返しとして都市の外側では人口が都市に吸い込まれてしまい、過疎地域が広がっています。里山・里海の破壊は第一次産業の衰退を意味しますが、都市住民は食料の供

給先を遠くの地方や外国に求めていきます。食料だけでなく、エネルギーも同様です。都市では食料もエネルギーも無尽蔵にあるような気になって、消費・浪費ざんまいの生活が送られています。

「このような暮らし方をこれからも続けていって、本当に良いのだろうか」これを考えていただくのがこの報告書の目的です。

私たちが報告書原稿の最終チェックをしている最中に、あの3月11日の大震災が起こったのです。食料もエネルギーも、本当に危うい状態の上で、私たちは暮らしているのだということから強烈に突きつけられた今、どうぞ、この報告書から里山里海の知恵を学び取り、これからどのような社会を作っていかなければならないかを考えていただきたいと切に願います。

この報告書は「千葉県生物多様性センター研究報告第4号」として、2011年3月に刊行されました。下記のURLでご覧になることができます。

<http://www.bdcchiba.jp/publication/bulletin/index.html>

問い合わせ先：千葉県生物多様性センター
（県立中央博物館内）
電話：043-265-3601）

環境に関する計画が策定されました（千葉市）

ー環境基本計画、水環境保全計画、自動車公害防止計画ー

千葉市環境局環境保全部では、平成23年4月に「千葉市環境基本計画」「千葉市水環境保全計画」「千葉市自動車公害防止計画」を策定しました。少しオーバーですが、計画ラッシュのようでした。策定は、計画原案について市内全区で市民意見交換会を行い、環境審議会やパブリックコメントを経ました。環境パートナーシップちばから千葉市環境審議委員として桑波田が参加し、計画に関わりました。

「千葉市環境基本計画」は、「千葉市環境基本条例」（平成6年）を受け、「千葉市環境基本計画」を平成7年に策定し、平成14年には見直しがあり今回の策定となりました。位置づけは「千葉市新基本計画」の環境分野別の個別計画で、「千葉市水環境保全計画」「自動車公害防止計画」等の施策の方向性を与えるものです。審議会では、生物多様性の保全や市民・企業・行政との協働で取り組むこと等の意見が多くでました。本計画の望ましい環境都市の姿として「豊かな自然と生活環境を守り、育み、潤いのある環境とともに生きるまち

へ」で、その実現に向けて、5つの目指す環境像を設置しています。

- ① エネルギーを有効活用し、地球温暖化防止に取り組むまち
- ② 資源を効率的・循環的に利用したまち
- ③ 自然と人間の調和・共存した快適で安らぎのあるまち
- ④ 健康で安心して暮らせるまち
- ⑤ だれもが環境の保全・創造に向けて取り組むまち

以上の実現に向けて、市民・事業者・行政とのパートナーシップが今後益々必要となります。

「千葉市水環境保全計画」は、「千葉市水環境計画」「千葉市地下水保全計画」「千葉市生活排水対策推進計画」の3つの計画を見直し、これらの計画を包括した計画として新たに策定されました。内容は、水域ごとの取り組みや、コラムとして市民の力で水環境をまもる市民活動団体の紹介もあります。以上の計画の詳細は、千葉市環境保全課のホームページをご覧ください。（文責：桑波田）

運営委員会報告

4月運営委員会(1)

日時：4月4日
場所：船橋市民活動センター
報告・協議
・だより79号について
・総会準備

4月運営委員会(2)

日時：4月12日 18:00～
場所：船橋市民活動センター
協議：23年度事業について(ホームページ)
総会準備

5月運営委員会

日時：5月16日 18:00～
場所：船橋市民活動センター
報告・協議
《事務局》総会報告
・アース・ダイアログ
・千葉市公民館講座
《広報部》
・だより79号及びホームページ
《事業部》
・LOVE OUR BAY 募金事業
・6月エコサロン
・エコメッセ2011in ちば出展

お知らせ

★ちばからはじめる アース・ダイアログ(地球の対話)

～3.11後の社会、私たちの未来をちばから考える～

日時：6月25日(土) 13:30～17:30
会場：きぼーる 多目的室(千葉市ビジネス支援センター15階)

第一部：地球サミットの歴史や地球サミット2012Japanの活動紹介

第二部：アース・ダイアログ(カフェ形式で、参加者全員で対話します)

定員：60名 参加費：500円

主催：環境パートナーシップちば

併催：地球サミット2012Japan

申し込み：kuwahatak@hotmail.com

★環境月間施設一般公開

千葉県環境研究センター水質環境研究室

テーマ：川をみる、沼を見る、海をみる

日時：6月6日～11日
時間：9:00～16:30
場所：水質棟1階会議室及び2階実験室
(千葉市美浜区稲毛海岸3-5-1)

◆広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP：<http://kanpachiba.com> E-mail: info@kanpachiba.com

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団 環境技術部
環境活動推進チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872 千葉県環境財団
環境技術部 環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		